

Title	学術助成金による成果に対するメディアメンションの計量的分野分布比較
Author(s)	中渡瀬, 秀一
Citation	年次学術大会講演要旨集, 34: 832-834
Issue Date	2019-10-26
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16582
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

学術助成金による成果に対するメディアメンションの計量的分野分布比較

○中渡瀬 秀一（国立情報学研究所）

1. はじめに

研究成果等を社会に伝えるメディア活動の規模を研究分野横断的に概観するための調査を行っている。本稿ではメディアとして新聞を対象にした調査方法とその調査結果について報告する。

今日、メディアが研究について言及する様式には様々なものがある。例えば論文掲載を伴う発見などのニュース、研究者による寄稿、記者による解説記事（研究者へのインタビューやコメント内容を含む）などがある。これらの中でもニュース記事件数の計測に関しては、これまでに特定の新聞データベースを情報源とした調査研究が行われている。有名ジャーナルに掲載された論文の成果を対象とする方法や大学や機関のプレスリリースをもとに追跡する方法がある。本調査では以上のようなニュース記事を含むより広範なメディアメンションを対象としたい。そこで日本学術振興会の科研費[1]に対する研究成果報告書を用いる方法を試みる。この方法では 2000 年代以降の国内研究成果について分野網羅的な調査が可能となる。

2. 方法

科研費報告書のデータ（科学研究費助成事業データベース[2]）を用いて新聞で言及された研究を抽出する。そのための条件として報告書の備考欄に「新聞」の記載があることを指定した¹。対象期間は研究課題の開始年度が 2000 年～2017 年度の課題である。これによって言及件数の概算値を求める。さらにこれらの中から研究種目の基盤研究(C)に関しては件数の実数も求める。このために記載箇所の内容を精査して研究についての言及がある課題だけを抽出した。次に研究種目全体については概算値を用いた分析、基盤研究(C)については実数を用いて研究分野別の分析を行った。

3. 結果

研究種目別の分布

研究種目別の概算新聞言及件数（課題数）と全課題数に対する比率を図 1 に示す。言及件数の多い研究種目には基盤研究や若手研究が見られる。基盤研究では S, A, B, C のクラスが設定されており配分額の上限に違いがある。上位クラスほど配分額が大きい大型研究であり採択課題数は少ない。新聞での言及件数はこの課題数に連動していることが確認された。つまり課題数の多い基盤研究(C)で最多、同(S)が最少となる。一方、全課題数に対するその比率では逆の相関が見られる。従って比率では基盤研究(S)が最大(5%超)で基盤研究(C)が最小である。種目全体で大型研究(SやA)以外は比率が概ね 1%以下であった。この特徴は別の種目である若手研究(A と B のクラスがある)においても同様である。結果として大型研究の方が新聞で取り上げられやすいという傾向が見られる。

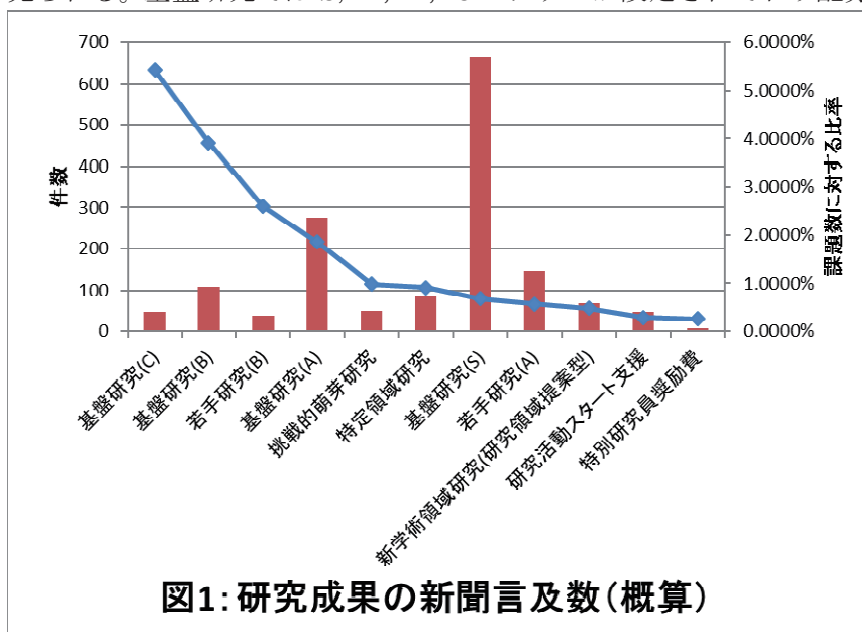


図1: 研究成果の新聞言及数(概算)

¹ここではメディアとして新聞での掲載を対象としたが、この方法は同様にしてテレビ放映や雑誌掲載についても適用可能である。

研究分野別の分布

次に研究分野別の特徴を調べるために、概算件数が最多である基盤研究(C)の抽出課題に限定して備考欄内容を精査し、新聞に掲載された課題の実数を集計した結果を示す（表 1）。この表では科研費の研究分野別²に結果を課題数水準（5段階に彩色）、（新聞）掲載数、掲載率（＝掲載数／課題数）に整理している。

課題数と（新聞）掲載数との関係を考える。分野によって課題数には 100 倍以上の差が見られた。例えば人類学には 100 件程度、臨床医学（内科系と外科系）には 1 万件以上の課題がある。ところが全分野における掲載数の分布範囲は 0 件～30 件程度であり課題数の分布範囲より小さい。このため課題数の少ない分野においては掲載率が相対的に高くなる傾向がある。このように新聞に掲載される研究内容への言及は単純に研究件数（課題数）には連動していない。つまり掲載が特定の分野に集中しないような選択がされていることが分かる。

課題数: ■(0～200) ■(201～700) □(701～2000) ■(2001～7000) ■(7001～)						生物系	医歯薬学	内科系臨床医学	0.26%	34
						生物系	医歯薬学	基礎医学	0.46%	23
						生物系	医歯薬学	境界医学	0.24%	4
						生物系	医歯薬学	外科系臨床医学	0.18%	20
						生物系	医歯薬学	歯学	0.22%	12
						生物系	医歯薬学	看護学	0.28%	12
						生物系	医歯薬学	社会医学	0.32%	6
						生物系	医歯薬学	薬学	0.54%	16
人文社会系	人文学	人文地理学	1.45%	5	生物系	生物学	人類学	0.66%	1	
人文社会系	人文学	史学	1.04%	22	生物系	生物学	基礎生物学	0.91%	15	
人文社会系	人文学	哲学	0.67%	11	生物系	生物学	生物科学	0.88%	16	
人文社会系	人文学	文化人類学	0.44%	2	生物系	農学	境界農学	0.24%	1	
人文社会系	人文学	文学	0.77%	23	生物系	農学	林学	1.82%	3	
人文社会系	人文学	芸術学	0.36%	3	生物系	農学	森林学	0.00%	0	
人文社会系	人文学	言語学	0.15%	6	生物系	農学	水産学	1.53%	6	
人文社会系	社会科学	心理学	0.29%	6	生物系	農学	畜産学・獣医学	0.88%	6	
人文社会系	社会科学	政治学	0.90%	8	生物系	農学	農学	1.82%	11	
人文社会系	社会科学	教育学	0.46%	19	生物系	農学	農業工学	0.42%	2	
人文社会系	社会科学	法学	0.77%	14	生物系	農学	農業経済学	0.98%	3	
人文社会系	社会科学	社会学	0.61%	14	生物系	農学	農芸化学	0.61%	9	
人文社会系	社会科学	経営学	0.46%	10	総合・新領域系	総合領域	人間医工学	1.18%	14	
人文社会系	社会科学	経済学	0.39%	11	総合・新領域系	総合領域	健康・スポーツ科学	0.58%	8	
人文社会系	総合人文社会	観光学	0.00%	0	総合・新領域系	総合領域	地理学	0.00%	0	
理工系	化学	基礎化学	0.36%	4	総合・新領域系	総合領域	実験動物学	0.00%	0	
理工系	化学	材料化学	0.90%	6	総合・新領域系	総合領域	情報学	1.15%	30	
理工系	化学	複合化学	0.81%	13	総合・新領域系	総合領域	文化財科学	1.28%	1	
理工系	工学	プロセス・化学工学	0.00%	0	総合・新領域系	総合領域	生活科学	1.29%	12	
理工系	工学	プロセス工学	1.29%	5	総合・新領域系	総合領域	神経科学	1.29%	8	
理工系	工学	土木工学	0.40%	6	総合・新領域系	総合領域	科学教育・教育工学	1.19%	16	
理工系	工学	建築学	0.37%	6	総合・新領域系	総合領域	科学社会学・科学技術史	0.00%	0	
理工系	工学	応用物理学・工学基礎	1.09%	7	総合・新領域系	総合領域	脳神経科学	0.68%	2	
理工系	工学	材料工学	0.43%	6	総合・新領域系	総合領域	腫瘍学	1.04%	2	
理工系	工学	機械工学	0.61%	19	総合・新領域系	複合新領域	ゲノム科学	1.42%	2	
理工系	工学	総合工学	0.74%	8	総合・新領域系	複合新領域	ジェンダー	0.52%	1	
理工系	工学	電気電子工学	0.48%	14	総合・新領域系	複合新領域	ナノ・マイクロ科学	1.92%	6	
理工系	数物系科学	プラズマ科学	0.00%	0	総合・新領域系	複合新領域	地域研究	0.00%	0	
理工系	数物系科学	地球惑星科学	1.41%	17	総合・新領域系	複合新領域	環境学	1.81%	17	
理工系	数物系科学	天文学	1.36%	4	総合・新領域系	複合新領域	生体分子科学	0.00%	0	
理工系	数物系科学	数学	0.21%	7	総合・新領域系	複合新領域	社会・安全システム科学	0.85%	5	
理工系	数物系科学	物理学	1.01%	27	総合・新領域系	複合新領域	資源保全学	4.21%	4	

表1: 新聞に掲載された研究課題数の分野別分布

² 調査対象期間の科研費における研究分野は4階層構造(系, 分野, 分科, 細目)となっている。図2では細目を省略した。

言及様式の種類

新聞において研究を取り上げている様式がいくつかあり、それらを広く対象にすることがこの調査の狙いであった。備考欄を精査する際に確認された様式を以下に挙げる。

- (1) ニュース（論文・成果物・イベント等），
- (2) 研究者による寄稿（解説・コラム・書評等），
- (3) 記者による研究者やその研究（成果物・書籍等）の紹介・解説，
- (4) 記者による解説記事に含まれる研究者からの情報やコメント。

これらを特徴から分類する。執筆者の観点から記者による 1, 3, 4 と研究者による 2 に分かれる。前者では主にプレスリリースに基づく 1 と記者が企画する 3, 4 とがあり，対象研究者らの研究内容や取組みを紹介する主旨の 3 とあるテーマに関する記者の解説に研究者らが情報を提供した 4 がある。

4. まとめ

科研費の報告書を情報源とした研究課題に対する新聞におけるメディアメンションの調査結果について報告した。新聞での掲載件数は課題数の多い小型研究に多いが，課題数当たりの掲載数（掲載率）は大型研究の方が多い。また分野別の特徴としては課題数の少ない分野の方が相対的に掲載率が高いことが確認された。今後は得られた言及様式のタイプ別に特徴の分析を行う予定である。

参考文献

- [1] 科学研究費助成事業 日本学術振興会，<https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/>，(2019)
- [2] 科学研究費助成事業データベース，<https://kaken.nii.ac.jp/>，(2019 年 9 月取得)